

1 対象機関の概要

1. 機関名及び所在地
島根医科大学 島根県出雲市塩冶町89番地1
2. 設立年月日
昭和50年10月1日
3. 学部学科等の構成（平成13年4月1日現在）
医学部：医学科，看護学科
大学院医学研究科博士課程：形態系専攻，機能系専攻，生態系専攻
4. 学生数（平成13年4月1日現在）
医学科：入学定員85人，3年次編入学定員10人，在籍学生数605人
看護学科：入学定員60人，3年次編入学定員10人，在籍学生数190人
大学院医学研究科：入学定員30人，在籍学生数79人
5. 専任教員数（平成13年4月1日現在）
267人
6. 設置の概要等

本学は、昭和50年10月、医療の向上と健康福祉の増進を願う島根県民の長年にわたる熱い期待を担い、一県一医大構想という国策の下に、医学部医学科を設置した。

開学以来、年次、教育、研究及び診療の組織・体制を整備し、昭和54年4月には医学部附属病院を設置し、同年10月から診療を開始した。さらに、医学科の完成に引き続き、昭和57年4月に大学院医学研究科博士課程を設置した。

その後、平成11年4月には看護学科を設置し、完成後の平成15年4月には大学院看護学専攻修士課程の設置を計画している。

また、平成7年2月には島根県内唯一の特定機能病院として指定を受け、島根県の中核的医療機関として高度な医療の提供・開発、各種研修を通しての高度な資質を有する医療人の育成などに貢献してきた。

7. 本学の特徴

島根県は、日本海に面して東西に長く、しかも多くの中山間部や離島を抱え、過疎地、無医地区も多い。また、65歳以上の老年者の人口比率は全国で最も高い。

このような状況下において、本学は、開学以来、地域医療の向上、地域と密着した医療の推進という建学の精神に則り、地域住民の健康を守り、包括的な保健・医療・福祉サービスに取り組んでいる。

2 教養教育に関する考え方

教養は単なる学力・知識の総体ではなく、人間としての品性・社会性などを含めた全人的素養であるのが理想である。さらに医科大学においては、専門の医学教育への橋渡しの役割を担うことも必須の要件である。

教養教育と専門教育の間に存在する排他性は、教育全般の向上を阻害する要因である。互いに異質な教養教育と専門教育が理解し合い、協力し合うことが非常に大切なことである。教養教育と専門教育の相互理解と協力並びに教養教育から専門教育への連携という考え方から、本学では専門教育との共同が可能な教養科目を教育課程に積極的に取り入れている。医学科と看護学科の合同講義である医学概論、医学科の生物物理学、基礎生化学、基礎分子生物学は専門教官との合同教養科目である。一般教養科目の教官が中心となり、これらの合同教養科目の運営に当たっている。必要に応じて開催する担当教官の合同会議では、授業の進度、出席状況、理解度、授業態度について討議する。授業内容については、専門基礎科目（生化学、生理学）への無理のない導入に配慮するとともに、学生の学力に適合しているかどうかにも留意している。教養科目の臨床心理は、専門科目だけを学ぶようになった3年次の学生に教養の必要性を再認識させるのに役立っている。これらの授業科目には外部からの講師を積極的に招いている。

国際感覚やコミュニケーション能力を培うための外国語教育では、外国人教師が医療の現場でよく使われる英語表現や英語論文の書き方を教えている。英語とドイツ語の授業では、医の倫理や環境に関する文学作品、エッセイ、新聞記事を教材として使用し、外国語を学びながら医の倫理と環境に対する関心を高めることができるように工夫している。

健康スポーツ科学では、生涯を通じての心身の健康の保持・増進を自ら心がけ、他を指導できることを目的とする予防医学面に力を入れている。

医学科の総合人間科学、総合自然科学、看護学科の基礎科目は、教養の古来の本義である「いかに生きるか」を学習することに立脚したものである。

3 教養教育の目的及び目標

目的

本学は、昭和50年10月の開学以来の基本理念として、医療者にふさわしい人格を形成し、人類の福祉に貢献することのできる研究を行い得る学生を養成することを方針としてきた。教養教育は、この方針に即し、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことを目的としている。具体的な目的は次のとおりである。

1. 社会人としての豊かな教養と高い倫理観を培う。
2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解させる。
3. 信頼される善良な医療人としての総合的判断力を育成する。
4. 患者中心の医療の本質を理解させ、それを支えるチーム医療の実行に必要なコミュニケーション能力を育成する。
5. 科学と情報技術の進歩に対応し、それを応用する能力を養う。

一方、教養教育は、医学科では総合人間科学と総合自然科学の2系列下で、看護学科では基礎科目の1系列下で実施される。それぞれの総合的な目的は以下のようなものである。

(1) 総合人間科学

医療人としての豊かな教養と高い倫理観を持って、社会のしくみを理解し、社会の中で自己を主体的に形成実現していくために必要な能力を身につける。より具体的には、人間性・倫理について学び、異なる文化を理解し、国際的な情報の獲得と発信を自在に行えるようになる。また、健全な身体と精神のあり方を身につけ、自信と協調性を維持しながら、医療人としての資質を常に高めよう人になることを目的とする。

(2) 総合自然科学

学問の全体像を体系として把握し、自然科学の基礎に基づき、統合された生命現象を取り扱い、現実の諸問題に適切に対処し解決するために必要な、論理的かつ柔軟な思考能力を身につけることを目的とする。医学を支える自然科学を数学・情報科学、物理学、化学、生物学の4系列にまとめ、それぞれの学問系列に沿って体系的に学ぶ。

(3) 基礎科目

幅広い教養と深い洞察力を身につけた、感性豊かな看護専門職を育成することを目的とする。より具体的には、「ケアとホスピタリティ」の精神を

身につけた看護職の育成を目指す。ここでいう「ケア」とは「患者を親身に診て(見て)世話する行為」であり、この「ケア」の精神を理解し、実践できるようにするための科目領域として、「人間の理解」という区分を設ける。「ホスピタリティ」とは「患者の身になって接し、心身に快適な環境を提供する行為」であり、この「ホスピタリティ」の精神を理解し、実践できるようにするための科目領域として「健康と科学」という区分を設ける。温かい人間性と国際性を身につけること、健全な心身を育成すること及び生命の尊厳と生命現象を理解する能力を培うことが、基礎科目を学ぶことによって可能となる。

目標

1. 豊かな教養と高い倫理観を身につけることによって、医療人にふさわしい行動ができるようになるため、
 - ・ 教官と学生同士が終日行動を共にすることで密度の高い交流を可能にする「人間形成」の場となるような合宿研修を行う。研修では、「親睦」、「礼儀」、「規律」、「共同」を重んじ、健康指導、班別懇談会、先輩の講演、登山、自由活動、現地研修を行う。
 - ・ 授業科目において、教養の古来の本義である「いかに生きるか」という問いについて考える時間を作る。
2. 医療人として正しい価値観と総合的な判断が創出できるようにするため、
 - ・ 哲学、歴史、思想など人文的な教養科目を多くする。
 - ・ 生命倫理に関する科目をカリキュラムに加える。
 - ・ 入学後の早い段階で医学体験実習を実施し、患者のケアを体験させる。
3. 健康的な日常生活ができるようになるため、
 - ・ 健康について学ぶ健康科学とスポーツ実習を充実させる。
 - ・ 授業への出席状況を学生指導の重要な参考資料とする。
4. 国際人として様々な国の人とコミュニケーションできるようにするため、
 - ・ 外国語科目を重視する。
 - ・ 聞く、話す力の向上に努める。
 - ・ 海外留学を推進する。
5. 医学を支える自然科学の基礎を理解し、それらを応用する能力を養うため、
 - ・ 数学・情報系、物理系、化学系、生物系の講義、実習を充実させる。
6. 専門科目とのつながりを明確にし、医学を学ぶ

-
- モチベーションを高めるために、
- ・専門教官との合同講義、「生物物理学」、「基礎生化学」、「基礎分子生物学」を充実させる。
7. 授業を効果的かつ能率的に学習できるようにするため、
- ・少人数教育を行う。
 - ・専門を異にする教官が合同で授業するオムニバス教育を行う。
 - ・学生の役に立つシラバスを作成する。
 - ・マルチメディア教育システムと情報機器を使用した授業を実施する。
 - ・授業の理解を高めるために補習授業を行う。
 - ・学生による授業評価を行う。
 - ・教養教育の専門家による講演会と討論会を開催し、教官の教育技法の向上に努める。

4 教養教育に関する取組

(1) 実施体制

本学の教養教育は、主として、一般教育等の教官が担当している。一般教育等の全教官が参加する教養科目会を毎月1回開催し、本学の教養教育のあり方について共通理解を深めるとともに、個々の学生指導に関する情報交換を行い、指導体制を整えている。カリキュラムや教育方法全般については、教育改革委員会、教務委員会の下部組織であるカリキュラム検討部会、及び自己点検評価委員会により検討がなされている。

本学では、平成3年の大学設置基準の大綱化を受けて平成7年度から、教養教育と専門教育とのさらなる連携強化を図り、関連科目の履修年次・学期の改正を行った。学際的授業法としては、平成8年からオムニバス授業を実施している。また、専門教育との橋渡しとして、医学概論、臨床心理、健康科学論、医療人類学、生物物理学、基礎生化学、基礎分子生物学、基礎解剖学などを取り入れ、基礎医学、臨床医学及び看護学の専門の教官と協力して教育を行っている。

医学科の人間科学系列の教養科目及び看護学科の基礎科目の多くは、医療人となるために必須のもの以外は選択科目が多く、学生の多様なニーズに合わせながら豊かな教養が習得できるように配慮している。国際文化論、言語文化論などのほか、外国語教育や外国人教師とのコミュニケーションの活用により国際的視野を培うことにも力を入れている。医学科と看護学科との合同授業も9科目で実施している。コンピュータ・リテラシーの導入を目指して、平成8年に総合人間科学を担当する教員が、マルチメディア教育システムと情報機器を応用した教育方法の改善に取り組んだ。そして、自由科目としてパソコン演習を取り入れた。平成12年には看護学生を対象として、図書館での文献検索の指導並びに教養特別講義を実施した。

平成10年度から12年度にわたっては、文部省から教養特別講義プログラム推進経費を受け、自己と他者・社会との関係、健康で充実した生き方などを学生自身が省察するための授業を組んだ。平成11年には教養教育研究会を開催し、外部講師を招聘して教養教育のあり方に関する意見交換を行った。

本学は開学以来、指導教官制度を実施しており、1人の指導教官がそれぞれ数人の指導学生を受け持って、生活や学習に関する種々の相談に乗っているが、教養教育を主として支えている一般教育等の教官は約半数が中学・高校の教員免許資格の保持者であり、中等教育と高等教育の双方の現状をよく弁えて、円滑な連携を意図して指導に当たっている。平成9年からは学生

による授業評価を実施し、評価結果を個々の教官にフィードバックして、教育内容の充実を図っている。

各科目の教育目的や目標は「授業科目の解説」(シラバス)として学生に配布されているが、平成11年度からはシラバスの内容をより充実させ、学生に到達目標を明示し、一般目標、行動目標、成績評価の方法などを記載して、自学自習の目安としている。

(2) 教育課程の編成及び履修状況

1. 編成上の基本方針と特色

本学で考える教養とは、第1が歴史・文学・哲学など人間に対する理解を深めるための人文的教養、第2が専門の基礎という意味での自然科学的教養である。この教養の根本理念は、「いかに生きるか」ということである。基本方針は、この教養の根本理念を教えるのに適切な一般教養教育科目、特に“人文的教養”を教える一般教養教育科目を多く設けること、選択科目数をできるだけ多くすること、及び専門科目を学ぶための基礎を培うために、自然科学の授業科目の充実を図ること、この三つを編成上の方針とした。また、編成上の特色は、教養科目と専門科目の連携強化により両科目の教官の交流と協力を促進し、互いに異質である両科目の教官の連携を図ったことである。

2. 授業科目の区分と内容と履修状況

医学科の一般教養教育の授業科目は、総合人間科学と総合自然科学の科目からなっている。総合人間科学は人間科学、外国語演習、健康科学・スポーツ医学の3系列からなる。総合自然科学は、数学・情報系、物理系、化学系、生物系の4系列からなる。一方、看護学科の一般教養教育の授業科目は基礎科目としてまとめられている。

(1) 一般教養の授業科目

人間科学は、人間文化論と比較文化論の2系列からなる。人間文化論は人間心理、人間心理、人間行動論の授業科目からなる。人間心理では認知心理学の初歩を学習する。人間心理では心理学の基礎的事項について主として人と人のかかわりの面から学習する。人間行動論では欧米における倫理学の諸分野を概観し、自分自身の倫理観を分析する。すべて必修科目である。

比較文化論は社会文化論、言語文化論、国際文化論の3つの系列からなる。社会文化論は歴史、地理、法律、政治、経済、音楽、美術の7コースの授業科目からなる。歴史コースでは、古代から近世初頭までの歴史を対象に、山陰などの地域の視点から社会と文化の歴史的な展開をみる。地理コースでは、“地域”の変化・多様化に伴い、“地理学”の各分野がどのように対応し発展してきたかを述べる。政治コースにおいては、政治への意識、権力、市民社会と近代国家、現代国家と行政、高齢社会・少子化社会・過疎地域の問題、医療と福祉などを論じる。経済コースでは、地域社会の変化と福祉の課題について考える。音楽コースでは、西洋音楽史におけるルネサンス以降の音楽作品を中心に鑑賞し、作曲者の意図

あるいは演奏者の解釈を探る。美術コースにおいては、芸術、文化と私たちの生活の様々なデザインについて講義する。これら7コースはすべて選択科目であるが、受講者数は適切である。

言語文化論は日本語、ドイツ語、英語の授業科目からなる。日本語の授業では、明治以降の有名な小説を取り上げ、作品の分析、作家の紹介、時代背景などを解説し、作品を鑑賞する。ドイツ語の授業では、言語文化に関するドイツ人の思考・認識方法がよく表れている文学作品や、ドイツ固有の事情を論じた文献を読み解く。英語の授業においては、ソローの有名な小説「森の生活」を英語で読み、日本語と英語の言語の相違を考えながら、シンプルな生活の利点を考える。日本語の授業は毎年1年次に開講される選択科目である。受講者が多い。しかし、ドイツ語、英語の授業は2年次隔年開講の選択科目であり、受講者は少ない。

国際文化論は、英米コース、ゲルマン・ラテンコース、アジアコースの授業からなる。英米コースは、英米文化を比較しながら両国の文化の相違について考察する。ゲルマン・ラテンコースにおいては、「文化・歴史」に関する主題についてドイツ語で書かれたテキストを読み、ゲルマン・ラテン諸国の文化・歴史に対する理解を探る。アジアコースでは、多様な歴史・民族・文化を持つアジアを理解し、そこに住む人々とどのようにつきあえばよいかを考察する。英米コースとゲルマン・ラテンコースは2年次隔年開講であり、受講者は少数である。アジアコースは、受講者は多い。

外国語演習として英文講読、実用英語演習、初級ドイツ語、中級ドイツ語がある。英文講読では、テキストの読解を通して人生・文化・環境について考える。さらに英語の聞き取りの演習を行う。実用英語演習では、英語のスピーキングの力を高めるための演習を行う。初級ドイツ語においては初級ドイツ語文法を学び、また、初級読本によって初級ドイツ語の文章の読み方を学習する。中級ドイツ語は、初級ドイツ語文法を復習しながらドイツ語で書かれた文学作品やエッセイを読む演習である。これらはすべて必修科目である。

健康科学・スポーツ医学に属する健康科学スポーツ実習は、各種スポーツを中心とした諸々の身体活動の実践により運動と健康の関わりを理解し、生涯スポーツを楽しむための基礎を作る実習であり、必修科目である。

総合自然科学は、数学・情報系、物理系、化学系、生物系の4系列からなる。数学・情報系においては、微分と積分に関する基礎的部分について解説する微

分積分学，統計処理の基礎的部分について解説する数理統計学，行列，行列式及びベクトル解析を学ぶ線形代数学，パソコン演習及び情報科学の授業が行われる。線形代数学，パソコン演習以外は必修科目である。物理系には物理学，物理学実習の授業がある。物理学では物理学の基礎と基本的な考え方を学ぶ。物理学は熱力学，統計力学の初歩を講義する。物理学においては電磁気学を取り扱う。物理学実習では，基本的な物理現象の定量測定の実験を行う。化学系には，原子及び分子について解説する物理化学，平衡の化学と基礎的な電気化学を学ぶ物理化学，有機化学の基礎を講義する有機化学，化学実験の基礎を体得するための化学実習の授業が組まれている。生物系には生命科学，の授業があり，では生命の基本単位である細胞及び遺伝子の分子生物学について，では個体としての統合された生命現象，すなわち，発生・分化，神経系，内分泌系，免疫系について学ぶ。動物学では動物全般を系統進化的に概説する。生態学では生態系生態学を解説する。遺伝学では分子遺伝学及びヒトの遺伝学の基礎を学ぶ。生物学実習は細胞，染色体，器官等の観察とスケッチの訓練によって生物への理解を深める実習である。これら理系の授業はほとんどが必修科目である。

看護学科の基礎科目は、「人間の理解」，「言語と文化」，「健康と科学」の3系列からなる。「人間の理解」に属する授業科目には医学科の人間行動論との合同講義である「ものの見方と論理的思考」，医学科の人間心理との合同講義である「人間心理」，医学科の人間心理との合同講義である「認知心理」がある。「言語と文化」においては，医学科の社会文化論（歴史コース）との合同講義である「日本文化の歴史」，医学科の国際文化論（アジアコース）との合同講義の「比較文化論」，家族とは何かを学ぶ「家族集団の形成と発達」，日本人の死生観について学習する「日本人の家族と死生観」，「英語」，「ドイツ語」，「中国語」の外国語演習，医学科の言語文化論（日本語）との合同講義である「日本語」，コミュニケーションの概要と技法について学ぶ「コミュニケーション論」及び「英会話」の授業が行われる。「人間の理解」と「言語と文化」に属する授業科目はほとんど選択科目である。「健康と科学」には，健康科学論の講義と実技を行う「スポーツの理論と実技」，医学科の社会文化論（美術コース）との合同講義である「芸術を創造する体験」，基礎的な統計的処理の知識を教える「統計学的数学」，物理学の基礎を教える「看護物理学」，分子レベルでものを考える態度の養成を目指す「生物有機化学」と生命の基本単位である細胞につい

て理解を深める「人間の生物学」の授業がある。ほとんどが選択科目である。物理系，化学系は受講者が少ない。生物系は受講者が多い。

以上の授業科目についての出席状況，学習態度，成績評価はすべてよい。

(2) 一般教養的内容と専門的内容を併せ持つ教育の授業科目

医学科の総合人間科学においては，医学概論，臨床心理，医療経済論，医療人類学及び健康科学論の授業が行われる。医学概論はこれから医師になろうとする1年生が身につけるべき医療人としての基本的な態度や心構えを学ぶ授業である。医学概論を除く授業科目は，心理学，経済学，人類学及び健康科学の一般概念・理論を学習し，それを基礎にして医学・医療の諸問題を考察する。医療人類学は比較文化論に，健康科学論は健康科学スポーツ医学に，その他は人間文化論に属する。これらはすべて必修科目である。

総合自然科学には，情報科学の基礎理論を学ぶ数学・情報系の医療情報学実習，生命現象を物理学の考え方や方法で学ぶ物理系の生物物理学，医療に不可欠な人体の分子レベルの知識を得ることを目指す化学系の基礎生化学，身体の各部分の名称を正確に認知し表現できることを学習の基本とする生物系の基礎解剖学及び分子レベルで生命現象を学ぶ生物系の基礎分子生物学の授業がある。すべて必修科目である。

看護学科の基礎科目においては，生涯発達の視点から人間発達について学習する「人間の発達と心身の相互関係」，人間の行動を心理学的に考察する「人間の行動の心身相関」，医学科の医学概論との合同講義である「生命科学と歴史と倫理」及び看護研究の基礎的な方法を学ぶ「看護研究の基礎」の授業が行われる。「生命科学の歴史と倫理」と「看護研究の基礎」以外は選択科目である。

医学科の3年次編入学者には人間行動論，臨床心理，細胞機能学，分子病態学，人体構造学の5科目が課せられる。

以上の授業科目にあっても，出席状況，学習態度，成績評価はすべてよい。

(3) 学生の学力の多様化に関する対応策

学力不足のため授業について行きにくい学生に対しては，専任教員が以前から希望に応じて勉強会を開催していたが，平成12年度は生物学の補習授業を行い，平成13年度からは物理学の補習授業も行っている。

(3) 教育方法

基本方針

本学においては、豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ科学的探求心に富む人材を育成し、医学及び看護学の向上と地域の医療・保健に寄与し、人類の福祉に貢献するために、全人的な教育を行うことを基本方針としている。教養教育は、その基礎となる幅広い視野を持ち、柔軟な思考ができる医療人の育成を目指している。

具体的施策

1) 授業形態

講義・発表・実習を主とするが、パソコンや視聴覚機器を利用した双方向性授業を組み込み、小グループでの討論やグループワークによる問題解決型学習、社会奉仕体験をも取り入れている。

総合自然科学の自由科目であるパソコン演習では、学内ネットワークを利用しながらインターネットを使うことを学び、情報の収集と伝達、データ処理及び文章作成の方法を身につける。

英語演習では、マルチメディア教育システムを利用し、英語の発音と聞き取りの訓練を行う。授業中だけでは不十分であり、昼休みと放課後に語学演習室を開放し、自由に発音や聞き取りの練習ができるようにしている。

医学科の実用英語演習と看護学科の「看護研究の基礎」では、教育方法として小グループでの学習と討論を多く取り入れている。

社会奉仕体験として、介護施設を訪問し、介護の現場を見学し、また実際に介護の体験を行っている。

2) 学習指導法

各科目の教官の主体的指導に任されているが、それぞれ、学生に実施したアンケート調査の結果に基づく指導方針の見直し、担当教官ならびに指導教官による学習不適應者に対する個別指導、チュートリアル教育などの工夫や取組みがなされている。

3) 学習環境

講義や実習には情報機器・視聴覚機器を備えた教室や実習室を利用しているが、チュートリアル教育の実施に伴い、大学全体でのそれらの絶対数が不足がちなっている。地域での早期体験実習には、近隣の老人ホームなどの関連施設や専門教育の教官の協力を得ている。

4) 成績評価法

中間試験・期末試験の成績、レポート、出席状況、授業中の態度などを総合して評価している。

5 変遷及び今後の方向

本学では開学当初から、豊かな人間性と倫理性を培う教養教育の独自性を尊重しながらも、医学科の6年間を通じて教養教育と専門教育を有機的に結ぶカリキュラム編成を行ってきたが、平成3年度の大学設置基準の大綱化を受けてさらに大幅な連携強化を図った。すなわち、それまで一般教育、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目の4系列で実施していた教養教育を総合人間科学と総合自然科学の2系列に整理・統合し、選択科目の割合を増して、学生が自ら学ぶ姿勢を培えるように配慮を加えた。また、医療への動機付けを促進するため、複数の学際的科目を組み込み、医学・医療の現場に早い時期から学生が接しヒューマニズムを養うことができるように、小グループでの体験学習を盛り込んだ。平成10年度から導入した医学科3年次編入学者には、総合人間科学の人間行動論と臨床心理、総合自然科学の細胞機能学、分子病態学、人体構造学の五つの授業科目を学習する特別カリキュラムを組み、医療人として必要な教養並びに総合的判断力を涵養できるように配慮した。出身大学で学んだ教養科目の欠けている所や不十分な部分を補うのにこの特別カリキュラムは効果的であった。また、平成11年度に看護学科を設置し、幅広い教養と総合判断力を培い、豊かな人間性を養うため基礎科目を置いた。

医学・看護学及び医療・保健面では学ぶべき情報量が飛躍的に増大している。今後も専門教育との連携と協同を考慮しながら、これらの分野の目覚ましい進歩とそれとともに現れる倫理的問題に充分に対応できるように授業科目の内容をさらに充実させる。これによって全人的な省察能力を培い、人間性の尊厳に関わる幅広く深い教養と高い倫理性・社会性・科学的探求心を効果的に涵養する工夫を続けていく予定である。

平成13年度からは放送大学との単位互換協定を結び、より多様な選択が可能になるように配慮している。

3.(1)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

学部名	単位数
医学部医学科	59
医学部看護学科	18

4.(2)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

学部名	単位数
医学部医学科	19
医学部医学科3年次編入学	12
医学部看護学科	4

4-2-4 一般教養に関する教育の授業科目の履修年次

(1)

4

・「4」を選択した場合、以下の欄に履修年次を記入してください。

履修年次
医学部 1～3年次
看護学科 1～4年次

(2)

授業科目区分名	授業科目名
一般教養科目	
看護学科	
基礎科目	
人間の理解	認知心理
言語と文化	日本文化の歴史
	比較文化論
	家族集団の形成と発達
	日本人の宗教と死生観
一般教養と専門的内容を併せ持つ科目	
医学科	
総合人間科学	臨床心理
人間科学	
人間文化論	臨床心理
医学科3年次編入学	
総合人間科学	人間行動論
人間行動論	臨床心理
総合自然科学	臨床心理
細胞機能学	細胞機能学
分子病態学	分子病態学
人体構造学	人体構造学
看護学科	
基礎科目	
人間の理解	人間の発達と心身の相互関係
	人間行動の心身相関
	臨床心理

4-2-5 一般教養に関する教育の授業科目の履修状況

(1) 平成12年度

授業科目区分名	最小値(人)	平均値(人)	最大値(人)
一般教養科目			
医学科			
人間文化論	85	85	85
比較文化論	0	43.9	79
英語演習	85	88	91
ドイツ語演習	82	84.8	88
健康科学・スポーツ医学	82	82	82
数学・情報系	39	75.8	87
物理系	82	86.3	90
化学系	85	86.3	88
生物系	42	80.8	96
看護学科			
人間の理解	29	41.5	54
言語と文化	5	29.3	60
健康と科学	0	34.1	61
一般教養と専門的内容を併せ持つ科目			
医学科			
人間文化論	85	88	94
比較文化論	82	82	82
健康科学・スポーツ医学	85	85	85
数学・情報系	83	83	83
物理系	87	87	87
化学系	85	85	85
生物系	82	84	86
医学科3年次編入学			
人間行動論	10	10	10
臨床心理	10	10	10
細胞機能学	10	10	10
分子病態学	10	10	10
人体構造学	10	10	10
看護学科			
人間の理解	43	51.5	60
健康と科学	59	59.5	60

(2) 平成12年度
<1> 分母を履修登録した学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値(%)	平均値(%)	最大値(%)
一般教養科目			
医学科			
人間文化論	96.5	97.7	98.8
比較文化論	1.6	80.4	100
英語演習	90.1	93.8	97.7
ドイツ語演習	96.5	97.6	100
健康科学・スポーツ医学	97.6	97.6	97.6
数学・情報系	48.7	91.8	100
物理系	84.3	92.5	97.6
化学系	87.1	92.8	98.9
生物系	13.9	77.5	94.8
看護学科			
人間の理解	89.7	96.4	100
言語と文化	60	93.9	100
健康と科学	61.5	86.3	100
一般教養と専門的内容を併せ持つ科目			
医学科			
人間文化論	94.7	96.6	97.7
比較文化論	100	100	100
健康科学・スポーツ医学	98.8	98.8	98.8
数学・情報系	97.6	97.6	97.6
物理系	89.7	89.7	89.7
化学系	89.4	89.4	89.4
生物系	90.7	95.2	100
医学科3年次編入学			
人間行動論	100	100	100
臨床心理	90	90	90
細胞機能学	90	90	90
分子病態学	90	90	90
人体構造学	90	90	90
看護学科			
人間の理解	97.7	99	100
健康と科学	100	100	100

<2> 分母を成績判定を行った学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値(%)	平均値(%)	最大値(%)
一般教養科目			
医学科			
人間文化論	100	100	100
比較文化論	50	94.7	100
英語演習	93.1	96.5	100
ドイツ語演習	97.6	99.4	100
健康科学・スポーツ医学	100	100	100
数学・情報系	76	98.3	100
物理系	85.2	94.4	100
化学系	90.2	94.7	98.9
生物系	13.9	82.3	100
看護学科			
人間の理解	89.7	96.4	100
言語と文化	96.4	99.6	100
健康と科学	70.5	93.2	100
一般教養と専門的内容を併せ持つ科目			
医学科			
人間文化論	100	100	100
比較文化論	100	100	100
健康科学・スポーツ医学	100	100	100
数学・情報系	100	100	100
物理系	90.7	90.7	90.7
化学系	95	95	95
生物系	96.3	98.2	100
医学科3年次編入学			
人間行動論	100	100	100
臨床心理	100	100	100
細胞機能学	100	100	100
分子病態学	100	100	100
人体構造学	100	100	100
看護学科			
人間の理解	97.7	99	100
健康と科学	100	100	100

(3) 平成12年度

平均値(単位)	最大値(単位)
79.5	86

4-3-2 一般教養に関する教育の授業科目における履修登録者数の上限設定

人数区分	授業科目区分名	授業科目名
1. 20名以下	医学科	
	数学・情報系	パソコン演習
2. 21名以下 ～50名以下	医学科	
	健康科学・スポーツ医学	健康科学スポーツ実習
	英語演習	英文講義
	ドイツ語演習	実用英語演習
		初級ドイツ語I
		初級ドイツ語II
		中級ドイツ語III
		中級ドイツ語IV
	物理系	物理学実習
	化学系	化学実習
	生物系	生物学実習
	看護学科	
	言語と文化	英語
		英会話
3. 51名以上 ～100名以下		
4. 100名超		

4-3-3 一般教養に関する教育の授業科目におけるシラバスの実施状況

(1)

1

・「2」を選択した場合

授業科目区分名

・「3」を選択した場合

学部名	授業科目区分名

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(2)

1, 2, 3, 4, 5, 6

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(3)

3

(4)

1

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。